

## 新型コロナウイルス(COVID-19)感染症

いかがお過ごしですか？ついこの間、新年がやってきたと思っていたら、もう2月です。月日が経つのをとても早く感じます。

今月のメッセージは、このテーマしかないと思っています。ご存知の方もいると思いますが、私の専門は予防医学で、病原微生物学を勉強しています。

さて、昨年12月31日より中国で原因不明の肺炎患者が相次ぎ、1月11日に武漢で初の死者が認められる新しい感染症が出現しています。これは、過去にヒトで感染が確認されていなかった新種のコロナウイルスが原因と考えられる感染症です。この新型コロナウイルス肺炎ですが、WHO(世界保健機関)が2月12日に「COVID-19」と命名しました。政府の発表によると、『日本では、(2月13日現在)この新型コロナウイルス感染症が流行している状況ではありません』とのこと。しかし、先ほどニュースが、湖北省で新たに14,840人もの感染者が確認され、死者も新たに242人確認されたことを緊急速報として報じました。2月13日現在、新型肺炎による全感染者数は約6万人で、全死者数は1,300人を超えたとの報告です。

また、横浜沖に停泊し、船内で新型コロナウイルスの感染が相次いでいるクルーズ船・ダイヤモンドプリンセス号。報道によると、船内には2,666人の乗客と1,045人の乗務員がいたそうです。そのうち、174人の感染が判明しています(2月12日現在)。船内の乗客・乗務員にくわえ、検疫官の感染が初めて明らかとなりました。感染した検疫官はWHOのガイドラインに従い、医療用マスクや手袋を着用。作業のたびに消毒も心がけていたと報道されています。

少なからず、国内外を問わず“混乱”しているように見受けられます。症状が出ていない潜伏期間中の人から感染した可能性があるとの推計も出ています。また、中国の研究者は、新型コロナウイルスが鼻や口の粘膜だけでなく、眼からも感染し得るとの報告を、2020年2月6日付の権威ある医学誌、Lancetで発表しています。さらに、WHOの事務局長が、新型ウイルスは世界にとって「非常に重大な脅威」だと警告しました。

先に書いたように、感染経路は断定することができませんが、新型コロナウイルスがどのように感染するのかについては、現時点では、飛沫感染と接触感染の2つが考えられます。飛沫感染は、感染者のくしゃみや咳、つばなどの飛沫と一緒にウイルスが放出し、別の人がそのウイルスを口や鼻から吸い込み感染します。注意が必要な感染場所は、学校や劇場、満員電車などの人が多く集まる場所です。接触感染は、感染者がくしゃみや咳を手で押さえ、そのまま周りの物に触れて、ウイルスが付いた状態を別の人がその物に触ってウイルスが手に付着します。その手で口や鼻を触って粘膜から感染します。注意が必要な感染場所は、電車やバスのつり革、ドアノブ、スイッチなどです。この特徴から考える一人ひとりができる新型コロナウイルス感染症対策は、「手洗い」や「マスクの着用」を含む「咳エチケット」などの通常の感染症対策が重要です。様々なものに触れることにより、自分の手にもウイルスが付着している可能性があります。外出先からの帰宅時や調理の前後、食事前などこまめに手を洗ってください。マスクは、咳やくしゃみによる飛沫およびそれらに含まれるウイルス等病原体の飛散を防ぐ効果が高いとされています。しかし、予防効果はあまり認められていません。ただし、混み合った場所、特に屋内や乗り物など換気が不十分な場所ではマスクも一つの感染予防策と考えられます。それよりも、咳や発熱などの症状のある人に近づかない、人混みの多い場所に行かない、手指を清潔に保つといった感染予防策を優先して行いましょう。くしゃみや咳が出るときは、飛沫にウイルスを含んでいるかもしれないので、咳エチケットを心がけ、他の人にうつさないことを考えてください。何よりも、普段から、十分な睡眠とバランスのよい食事を心がけ、免疫力を高めておくことが重要です。

感染症を研究している仲間から、新型肺炎の国内患者を治療した、国立国際医療研究センターの犬曲貴夫国際感染症センター長が日本環境感染学会の緊急セミナーで講演した内容を聞くことができました。「かぜのような症状が1週間続き、倦怠(けんたい)感もあると、かぜやインフルエンザの症状とずれているので気付くポイントだ。渡航歴がない人の感染はこれからも出てくる。感染を疑い、捨っていくことが大事」と話したそうです。充実した大学生活を送るためにも、感染症対策に努めてください。

